

総評が抗議声明

総評幹事会は六月十七日、「沖繩返還協定」調印に対する抗議声明を発表し、「いわゆる、核抜き、本土なみ、七二返還」の三原則が貫かれたとしているが、これはまったくの偽りであり、国民をあざむくものと政府を糾弾した。総評の抗議声明は次のとおり。

偽りの「沖繩返還協定」、闘いとろう、基地なき沖繩

一、調印にあたり、いわゆる「核抜き、本土なみ、七二返還」の三原則が置かれたとして、日米両国政府が、これはまったくの偽りである間、調印を、国民をあざむくものと批判されざるを得ない。

二、われわれは、このような「沖繩返還協定」を断じて認めない。この協定は、いかに政府・自民党が、この「返還協定」に結びつけ最大限利用しようとしているか、同時にわれわれは、「沖繩返還協定」に含まれた危険性を国民の前に徹底的に明らかにし、つづつ、核も基地もない沖繩の完全返還をめざして、一段と強い決意で戦い抜くことを内外に声明するものである。

一、「返還協定」では、「核兵器の撤去」が何ら明示されておらず、アメリカの謀略放送VOAや特殊部隊はそのまま存続され、米極東戦略の基地機能が現状のまま半永久的に固定化されようとしていること、それが明瞭に示されている。

二、しかも、沖繩県民の強い要求であった米請求権は放棄され、米國産産が有償で買収されるなど、国民不在の屈辱的な返還協定になっていることである。

三、政府は、「返還協定」の



最近、現場での係員たちの眼色が変わってはいないだろうか。昭和四十六年一月号「三池時報」に、三池炭鉱人事課教育係から職員一同に訓令のようなものがだされておられ、それによれば、(1)必然的な減員傾向について四八年度目標「二万トン」(三池の石炭日産額で、三池闘争前ごろの目標は二万トンだった)の(2)体制の横すべり。

二万トン体制の目標は?

三池では、あれほどの大きな災害をひき起こしては、依然として災害が統制している。当然ながら、「二万トン体制」の質における強化をめぐり、気遣いした三井三池の合理化計画が問題化してきた。このことについて、このほど宮浦指導部の開発・測量・検出職場分会の新聞「もっす」が、社内報の「三池時報」の記事の内容を紹介、会社のねらいをバクロした。注目すべきではないか。

少数精鋭主義の確立 役立たずは職員も切捨て

「もっす」の 記事

最近、現場での係員たちの眼色が変わってはいないだろうか。昭和四十六年一月号「三池時報」に、三池炭鉱人事課教育係から職員一同に訓令のようなものがだされておられ、それによれば、(1)必然的な減員傾向について四八年度目標「二万トン」(三池の石炭日産額で、三池闘争前ごろの目標は二万トンだった)の(2)体制の横すべり。

No. 4	事務局長 川原 茂
No. 3	事務局長 川原 茂
No. 2	事務局長 川原 茂
No. 1	事務局長 川原 茂

各地で守る会活動

各地に、CO患者を守る会が誕生しては活動しているが、これにその苦しい活動について報告する二つの便りを紹介する。

川原さんの便り

前略、三池炭鉱の役員の方をはじめ組合員の皆さんお元気ですか。CO患者・遺族を守る闘いを中心に、反合理化闘争を押し進めていこうと決まっています。

私たちの住む浦和地域に、四つのまなびサクルがあり、三池に学べと頑張っております。

私たちはこの統一地方選挙に、サクル、まなびで推せん候補を立てて、選挙運動を行なうました。そして、なぜ社会党候補を応援しなければならぬのか、疑問や悩みについて、運動の中で

返還闘争の先頭に立ちよう 沖繩返還協定抗議集会在決意

こんど佐藤政府がアメリカ政府との間に調印した沖繩返還協定は、予想されていた以上にひどい内容のものだから、全国民の間には改めて「偽りの沖繩返還協定反対」「基地なき沖繩の真の返還」の怒り

こんど佐藤政府がアメリカ政府との間に調印した沖繩返還協定は、予想されていた以上にひどい内容のものだから、全国民の間には改めて「偽りの沖繩返還協定反対」「基地なき沖繩の真の返還」の怒り

「沖繩を訪問したとき、向うの人々はいつか『きてくれるのはありがたいが、それよりもっと本土での闘いを強めてもらいた』と。

戦後二十六年間、沖繩は核の恐怖におびえ、アメリカ軍の演習による事故におびえて生きてきた。返還協定は、「基地と核のない沖繩にして復帰を」との向うの人々の願いを完全に裏切った。

私たち本土の労働者は、講和条約締結のとき、沖繩県民の意志を無視して、異民族の支配にま

かされたことを忘れず、いかに闘い、いかに奮闘して活動しているか、鶴島浩一さんのお住いは「神戸市東灘区住吉町東灘郵便局、全通東灘支部受付」です。

お願い

組合員・主婦の皆さん、そこが心の中を激しく送られてきます。どうかおしり手紙でも、交流をお願ひ致します。

(編集部)

住友資本、改めて閉山提案

住友三山(北海道)に、資本の合理化攻撃がかかっていることは周知の通りであって、炭労として闘いをすすめてきたが、その後事態はますます深刻さを増してきて改め現在すすまれている石炭政策が問題となっている。

住友のその後の事態が心配されているが、二十三日の朝日新聞が次のように伝えた。

経営不振にあえぐ住友炭鉱(川副官次社長)は二十二日、同社の主力炭鉱の一つである奔別炭鉱を閉山する方針を決め、奔別炭組(千原三郎委員長、組合員千七百三十三人)に通告した。

銅島さんの便り

日夜のご健闘、ごきげんさまで。私たちの職場では「三池に学び、そして追いつけ」を合言葉に、まなびに四十名の仲間を組織してきていますが、当局の三長官会議にはじまる青年労働者に対する攻撃は、種々の訓練、寮における管理、レクリエーション、スポーツ、サークル運動となり、「ものごとく労働者への」となっております。

私たちはより一層学習活動を強化し、より多くの仲間を得て、当局の攻撃に対処できる組織づくりをめざしてまいります。

さて、神戸CO患者を守る会、は結成以来、二回の二・九集会和数回のカンパ活動をやったのですが、少数ながらもよいかたち頑張っております。